

十文字開発記念樹 (じゅうもんじかいはつきねんじゆ)

鶴岡市長沼字十文字24

(案内略図)

十文字集落の個人宅地内になるビャクダン(クロベ)の巨木。根回り6.0m、幹囲5.4m。主幹は東北へ45度傾き、東西に扁円状をなし、数本の大枝に分かれ直上、斜上してバランスをとっている。

江戸時代初め現秋田県十文字町から三名の移住者が来て、芳香漂う一本のビャクダンが生い茂るこの地を開拓地と定め、その開拓に成功したため、それに感謝し保存してきた樹であると伝えられている。

昭和27年4月1日、県指定天然記念物に指定された。

[山形県みどり推進機構]



山形県指定天然記念物
十文字開発記念樹(クロベの巨樹)

指定年月日 昭和二十七年四月一日

主幹は、東北へ45度傾き、地際の周りを5.4メートル、東西に長い扁円状をなし、百通りの周りを三・六メートルである。数本の大枝にわかれ、直上、斜上、あるいは互に対称に斜上してバランスをとっている。

江戸時代のはじめ、出羽国早稲十文字(現山形県早稲十文字)から三名の移住者がきてこの地を開拓したが、その際ビャクダンの木が生い茂るこの地を定めて開拓に成功したために、それを感謝し保存してきた樹がこの「クロベの巨樹」とあると伝えられている。

平成九年十月一日

藤島町教育委員会
山形県教育委員会

【森林やまがた72号(2003年3月)記載】